

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100049		
法人名	㈱ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター千歳北陽		
所在地	千歳市北陽1丁目11-8		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で職員は優しく笑顔があるホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosvoCd=0191100049-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ニチイケアセンター千歳北陽は、市民病院や小学校、スーパーや薬局等が立ち並ぶ閑静な住宅街に位置し、バス停が至近にあり駐車場も広く、家族など関係者が訪問しやすい環境にある。開設11年を経た事業所は、地域住民とは良好な関係を構築し、運営推進会議に住民の参加協力があり、小学児童や高校生の来訪、音楽や踊り等のボランティアの受け入れなど、ふれあい交流が行われている。職員は、利用者がその人らしく、穏やかな生活が送れるよう、一人ひとりに寄り添った支援に努めている。個別や集団での体操やゲーム、パズルやめり絵、家事作業も好きなこと、出来ることをしながら心身の機能維持につなげており、食事は利用者の食べたいものを聞き、季節行事や誕生会では寿司や弁当、オードブル等も取り寄せ、楽しみの食事を工夫している。また、医療面では訪問診療や訪問看護体制を整え、日常の健康支援の先にある終末期ケアの取り組みも始めている。コロナ禍により様々な活動制限はあるが、理念である「挨拶、笑顔、笑い声」を全職員で共有し、日々実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	挨拶・笑顔・笑い声の理念に、実践に繋がっている。	事業所の独自の理念を目に付く所に掲示し、人との関りはまず挨拶からとして理念の実践に努めている。新職員には入職時研修で事業所の方針を伝え、全職員で笑顔や笑い声のある暮らしの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルスが無ければ、運営推進会議やボランティアの方々との交流を実践していた。	町内会に加入し、運営推進会議には町内会役員や住民の協力を得ている。コロナ禍では各種行事は自粛しているが、例年は近隣の小学校や高校の子供達と交流し、市民ボランティアの楽器演奏やフラダンスなどで、ふれあいの機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍と言う事も控えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスが無ければ運営推進会議が行えないので、これから、サービスの向上を活かしたいです。	コロナ禍対策により現在は書面報告に変更しているが、通常は定期的に会議を開催し、活動や利用者の状況報告を通して得た意見を運営に反映している。議事録は全家族に送付している。書類全般における整備に取り組む考えを示している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡をし取り組んでいる。	管理者交代の際には、書類提出や疑問等を相談し、コロナ感染症対策では早期から連携を取り、不足物資の支給を受けるなど対応策の共有を図っている。また、社協ともボランティアの活用や車椅子の貸与等で協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜のみ行っていますが、日中は鍵はかけてません。日頃身体拘束廃止委員会を設置し研修を行ってます。他職員同士での身体拘束の把握の為話し合いを行ってます。	指針を作成し、毎月の身体拘束適正化委員会と定期的勉強会により、全職員で指定基準における具体的内容の理解と、サービスの現状確認を行っている。玄関は夜間のみ施錠し、利用者が拘束や抑圧感を感じることはないよう環境作りに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、学ぶ機会を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍と言うこともありますが、説明し理解はされている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍と言う事もあり、発揮できることが出来ない。	家族には、毎月写真を掲載した通信や面会、電話連絡の際に利用者の様子を伝えている。介護計画見直しの時にも意見や要望等の聞き取りを行い、個別の計画やサービス、運営等に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ホーム会議を行い、そこで言えなくても、話せる環境に心がけている。	毎月ユニット合同の会議では、主にケアや業務の流れについて意見が出され、検討して改善等につなげている。管理者は個別に職員の話聞くことを心掛け、また、人事考課による定期面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ不足ではあるが、その人の条件により、職場環境・条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	把握し働きやすい環境を努めている。研修も毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為電話やメールでのやり取り。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の職員が利用者様との信頼関係を持ち		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	玄関先ですが、不安なことや要望を聞き対策を考えたり努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人その人により状況などを確認してその人らしいサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は職員を頼りにしていることもある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族との間に入り橋渡しの役割を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為前のように来訪できないが、電話や玄関先やタブレット面会等行ってる。	コロナ禍により、面会者の受け入れは難しいが、電話や手紙で親しい人達との関わりが途切れないよう支援している。日常的にも利用者の故郷の話や大切な人達とのエピソードを引き出し、聴くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行える、歌やゲームや体操などを行い、楽しむ。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援など努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人にあつた支援を行っている。	会話を交わしながら本人の気持ちや意向を聞き取り、言葉での表現が困難な人は表情や仕草などから察するようにしている。アセスメントはセンター方式各シートを使用して3か月毎に見直し、介護計画作成に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できるよう支援してる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人その日により状態はは変わるが努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な話し合いは、コロナ禍の為できない為、事前に電話などで家族様と話して状況確認行う	介護計画は定期的に見直し、本人や家族の意向、医療関係者の助言を踏まえ、計画作成担当者を中心に担当職員はじめ全職員の気付きを参考に、個別の計画を作成している。計画に対する実践は日々の記録で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の間での確認しながら利用者様が安心して過ごされるよう支援行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な角度からの対応し支援していく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の対応ですが地域の方から踊り等のDVDなどを頂いたりし、皆で見て楽しむ		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その時その時により、状況の変化をキャッチし往診や受診に繋げる。	事業所全体で週1回の訪問診療と訪問看護体制を整え、専門外来や希望のかかりつけ医の受診は、家族と協力して職員が同行している。気になる症状や緊急時には随時相談し適切な指示を得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診の看護師と連携し対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対応はできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族様との話し合い、今後どのようにするか、医療機関などと連携しながら支援行う。職員にも伝え連携を図る。	重度化や終末期のあり方については、利用契約時に指針を説明している。状態変化の各段階では、利用者、家族の意向を聞き、医療関係者との話し合いの場を設け、チームとして希望に沿った終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などし緊急時への対応に繋げる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が行える様、訓練など。	年2回の避難訓練を計画し、10月に夜間、火災想定での通報、避難訓練を実施し、コロナ禍により事業所内での自主訓練として行っている。定期的に設備点検を実施し、水や食料、各種非常用備蓄品を準備している。	近年想定外の災害が多発していることに備え、地震など自然災害についても実践的な訓練が期待される。また、停電や防寒対策(暖房器具)の整備も併せて期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の尊厳を大事に対応行う。	職員は接遇マナーを学んでおり、利用者の呼び掛けは苗字か名前に「さん」付けとし、気になる言葉使いがあった場合は注意を促すなど、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし決定できるよう働きかける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中に一人一人の要望を取り入れる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時に確認しながら声かけし支援行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も一人一人の嗜好があるので、その都度確認しながら、楽しむ。	食事作りは、利用者が無理なくできることを一緒に行っている。職員作成の献立は嗜好や季節感を取り入れ、パンや麺、丼物やピザなども食卓にのぼり、時には生寿司やオードブルの取り寄せもして楽しみの食事を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助が必要な方は介助し自力摂取は声かけにて支援行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけで行う。拒否ある時は時間を置く		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っているが、パットに汚れてることが多いがトイレに座ってもらう。	全員の排泄状況を把握し、おむつの人も日中はリハパンに替え、トイレで自然な排泄ができるよう個別に自立を支えるケアを行っている。便秘時の処方薬は必ず看護師に相談して使用し、本人の体調不良や不快感が少なくなるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでもらうとか人によりケアが異なる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員不足なので、対応できなく。入浴を楽しんでもらう為、入浴剤を使うとか変化する。	個々に週2回程の入浴支援をし、殆どの利用者は湯舟に入り、状態によっては清拭やシャワー浴で清潔に過ごせるように支援している。入浴を億劫がる時も無理強いせず職員の上手な声掛けと、入浴剤を選んでもらうなどして、気持ち良く入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人にあった支援を行ってる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍なので、外出ができないので音楽を聴いたり体操をしたりする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が無ければ支援可能ですが、今は行えない	コロナ禍により、外出活動は自粛しているが、戸外に出て日光浴をしたりと、外気に触れ気分転換の機会を作るようにしている。来年度は庭先に小さな花壇や菜園を作り、楽しみの場面を広げたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍もあり、買い物など一緒に行けないため、支援していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたりと行える手紙もできる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の色など工夫している。	共用空間には、クリスマスツリーなど、その時々々の季節感や年中行事に合わせた装飾を施し、家庭的な雰囲気を作っている。車椅子走行など利用者の状態に応じてテーブルの配置を変更したり、リビングに面しているトイレにはカーテンを設置するなど、安全面やプライバシー、羞恥心などに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩スペースがあり、		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具など慣れ親しんだ物置いたり工夫している。	居室には、自宅から筆筒やテレビ、ラジカセなどが持ち込まれている。家族写真や趣味の作品等が飾られ、それぞれの自室として安心できる空間作りに努めている。状況により同意を得てセンサー等も使用し、安全対策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体操・歌・カルタなど健康の維持		